

## 第6回門真市学校適正配置審議会議事録

開催日時 令和元年11月25日（月） 午後2時～午後3時50分

開催場所 市役所本館2階 大会議室

出席者 横山俊祐、浦嶋敏之、西孝一郎、松崎淳子、村上空織、大田俊二、後藤忠夫、日置芳太郎、上村梨恵、加藤諭、濱崎恵子、国吉孝、上甲尚、明智威久、清水玉美

事務局 邊田副教育長、西口管理監、中野教育部次長兼教育総務課長、三村総括参事、渡辺教育総務課参事、植原学校教育課参事、高山学校教育課参事、東谷教育総務課長補佐、宮崎教育総務課長補佐、柳瀬学校教育課長補佐、前馬教育総務課副参事、松本学校教育課副参事、永田教育総務課主任、長教育総務課主任

傍聴者 3名

議 事

○開催

### 事務局

定刻となりましたので、第6回門真市学校適正配置審議会を開催いたします。本日はご多忙にもかかわらず、ご出席いただき誠にありがとうございます。

本日は、委員16名中15名がご出席されており、門真市附属機関に関する条例の施行に関する門真市教育委員会規則第5条2項の規定により、会議が成立していることをご報告申し上げます。

本日は、吉岡委員はご都合がつかず、欠席となっております。

なお、後日議事録を作成するため、会議を録音させていただいております。ご発言に際しては、お手元のマイクのボタンを押していただきますようお願い申し上げます。

次に、お手元の資料の確認をしたいと思います。

1点目 会議次第

2点目 資料1、第5回審議会の議論の中で出た意見の整理

となっております。すべてそろっておりますでしょうか。

それでは、おそろいのようなので、進めさせていただきます。

以降の進行は、会長にお願いしたいと思います。

会長よろしくおねがいします。

## 会長

みなさん、こんにちは。この会議も6回目を迎えて、いよいよ佳境に差し掛かってきたところだと思います。

前回から、優先順位をつけながら、どのように学校再編を進めていくのかということにつきまして議論を進めております。本日も前回の継続ということで、基本的には学校の再編、それから小中一貫校の計画を含めて、どのようにこれから門真の校区を考えていくのかという議論を進めていきたいと思っております。

まずは、前回の振り返りをしたいと思っておりますので、資料を基に説明をお願いします。

## 事務局

事務局でございます。私から資料1を用いまして、第5回の振り返りをさせていただきます。

まず、めくっていただきまして2ページでございます。

第5回審議会では、前半の議論であるこれからの学校づくりの方向性について、これからどのような学校にしていくことが重要かという議論をしていただきまして、まとめの資料を作らせていただきました。

概ね皆様にはご賛同いただきましたが、一点、左下の安全・安心というまるについては、安全安心は当たり前のことである、これまでの議論で行けば、門真の学校づくりを進めるにあたっては、楽しく過ごすということに重点を置くべきで、ニュアンスが違って受け取られるんじゃないかということで、このワードについては少し変えたほうが良いのではないかというご意見を頂きました。

それを踏まえまして3ページでございます。修正案といたしまして、「快適で楽しく過ごせる場所づくり」に置き換えております。この審議会での前半の議論のまとめとしてこの資料を今後活用してまいりたいと考えておりますので、この案について後ほどご議論いただければと思います。

続きまして4ページをご覧ください。

後半では、これからの具体的な門真の学校のあり方について議論を進めていただきました。まず、基本的な考え方について、これは、これまで議論していただけてきた内容でもあり、新たに議論されたことではないですが、前半の学校づくりの議論を、未来志向でどのように実現するかという視点で議論したい。単に学校の統合を考えるということではなくて、子どもたち目線でこれからの新しい学校をどう創っていくのかと捉えていきたい。また、地域のコミュニティづくりも合わせて考える必要があるということで、具体の学校云々ではなく、議論す

る基本的な考え方としてまとめています。

次に学校統合についてどう考えるかについての意見をまとめています。

子どもが少ないところは優先的に考えてほしいでありますとか、これまで議論してきたような子どもの横のつながりを考えた時に、あまり少ないと影響が出るんじゃないか。また、多数の人の中で学び合いや多様な交流の中での学びが難しくなるんじゃないか。といったことが挙げられました。

また、地域では反対という人もいます。それだけ学校に愛着があるということと地域ともそういう話をしていくことが大事ではないか。

また、学校を見るのか、子どもを見るのかの視点が大事。門真の子どもたちにとってどうか、子どもや孫に何を残したいかを一緒に考えてもらうことが大切ではないかといった話がありました。

併せて、跡地の在り方も合わせて考えていく必要があるのではないかとということで、学校統合についての意見としてまとめています。

続きまして5ページです。これから議論を進めるにあたっての考え方として、全体の中で優先順位をつける必要があるんじゃないかという議論になりました。いくつか〇を書いていますけども、子どもの数の推移、地域や校区の広さ、施設の老朽度、立地条件・学校分離の経緯などを考えながら、優先順位をつけていくことが重要である。

門真市の財政や学校の状況を踏まえると、優先順位をつけながら、学校数も減らしつつ、新しい学校づくりの予算を確保するやり方が好ましいのではないか。また、ひとつひとつ着実に創っていくことがベターであるが、将来のことも見通して、将来に期待する姿を示したうえで、優先順位をつけていくやり方はどうかということでした。具体的なところでは、100人台になっている学校は優先度が高いのではないか。であるとか、物理的な条件が揃うところがチャンスではないかといった意見も出していただきました。

こういった考え方を基に具体的な議論に入ったわけですが、6ページでございます。前回特に、砂子小・脇田小・東小・四中の門真の南東エリアについて議論となりました。

校区面積が狭い、児童数推計が令和7年度には51人、この辺りは手を打っていないといけないのではないかという問題提起。また、立地条件として脇田小と四中が隣り合っていて広い校地があるといったような話題もありました。

その中で、東小学校区の江端町地区については、四中に行く子と五中に行く子と、門真の中で、中学校が分かれてしまう唯一のエリアであるということで、このエリアについて言及がありました。東小学校のうち、少ない子どもだけが四中に通うということについて、子どもの声や学校の声を紹介いただいたうえで、新

しく四中校区に学校づくりを行うのであれば、この江端町の子どもたちが分かれてしまうのは可哀そうだ。また、どちらかにみんなが行けるようにしてあげるほうが良いのではないかという意見が出ました。

そして、四中、五中どちらにいくということも考えられるが、江端町地区はすぐ隣が四中・脇田小の校地なので、この審議会の意見としては、四中の新しい学校の校区に含めるのが良いのではないかというところになっています。

方向性としまして、先ほどの視点をトータルで考えると、砂子小を含む四中校区はすぐに手を打っていく必要があるのではないか。また、立地条件等から、小中一貫校のモデルエリアとして、砂子小、脇田小、東小の一部、四中で、新しい小中一貫校を考えるのが適当ではないかという議論だったかと思います。

次に7ページです。もうひとつ話題になったエリアとして、四宮小、北巢本小、五中になります。このエリアは、もともと第3次審議会の答申の中でも、統合とされているエリアになっていること、施設の古さ、児童数の減少、校区の面積などから、四中地域同様に考えていかなければならないところではないか、という話題になりました。また五中も含めて小中一貫校を考えられないか、一方で、五中は近年大規模改修をやった実績もある中で、どうするのかという話も上がりました。

方向性としては、四中エリアと同様に、北巢本小、四宮小を含む五中エリアについても、優先順位は高いのではないか。五中については、大規模改修を行ったところであるので、すぐに施設一体型での小中一貫校は考えにくい状況ではあるが、北巢本小、四宮小については、新しい学校づくりを考えるのが適当ではないかということで、引き続き議論をしましょうということで終わっています。

8ページでございます。

それ以外のエリアでも、いくつか言及がありました。1つ目が、大和田小、上野口小、古川橋小のエリアについて、現時点では中学校区をベースにということになっているが、中学校区という条件を外してよいのであれば、これらの学校は、それぞれ校区面積も狭く、児童数も少なくなりつつあって、まとまりとして一つで考えられそうではないかという意見がありました。

もう一つは五月田小、七中エリアということで、隣り合っている学校であり、広い校地になりうるということで行くと小中一貫校の候補になるのかなというところで、一方で五月田小は大規模改修を実施しているというところで、今すぐここをとというのは考えにくい部分もある。といったところもあって、すぐにすべてのエリアで施設一体型での小中一貫校ということにはならないだろうけれども、すべてのエリアで小中の連携を進めてほしいといった意見も出されました。

第5回審議会で話題になったエリアということで、このようにまとめさせて

いただきました。本日は、引き続き、同じような視点で市域全体を見た時にどうなのか、それを含めて、どこが優先順位が高いのかというところで議論を進めていただきたいと考えております。

合わせて、もうひとつ資料として用意しています。前回、小学校区の地図を資料にしたと思います。その中には、校区面積、校区人口、児童数を記載していたのですが、前回このような視点で見ていく必要があるのではないかという意見を出していただきましたので、その状況を整理して、改めて地図に、児童数が少ないのはどこか、校区面積が狭いのはどこか、築年数が経っているのがどこか、立地条件が揃っているのはどこか、古くからある学校はどこかといったことを地図に重ねておいたものでございます。これまで提供してきた資料のイメージ図みたいなものですので、新しい情報は何もありませんが、さらに議論を深めていただくため、エリアの状況を見ていただくために、前に表示しておきたいと思っておりますので、これを参考に議論を進めていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

事務局からは以上です。

## 会長

ありがとうございました。それではこれを元にして、本日の議論を進めていきたいと思っております。

まず、前回の振り返りについて説明がありましたが、これに関して付け加えや修正はございませんか。なければ、これを元にして、今日の議論を進めていきます。この会の名前は「学校適正配置審議会」という名前です、いかにも統廃合ありきというような名前がついておまして、もちろん統廃合について考えてなくてはいけないと思うんですが、やはりこれから門真の学校をどう創っていくのかというある意味、学校改革を進めていこうというための審議会というように考えたほうがいいのではないかと思います。

学校改革というのはこれまでの学校教育を見直しながら、子どもたちの学力の問題や様々な問題がありますが、そのようなことも踏まえながら、学校教育の質をどう高めていくのか、例えば近年アクティブ・ラーニングなどの新しい学習形態の話も出てきておりますし、コミュニティ・スクールという学校と地域を密につなげながら学校の運営を進めていこうというような状況も出てきております。新しい学校のソフトをどのように充実させていくのかということと、もう一つは門真の学校、建物の状況を以前紹介いただいて、子どもたちが楽しく喜んで学校に行きたくなるような施設というものはない状況にあるということがわかりました。写真で紹介いただいた学校はとても古い状況で、本当に子どもたちの学びの場としてふさわしいのかということもあると思っております。

そのようなことを踏まえていくと、これから門真の学校をどう創っていくかということが非常に重要になってくると思います。そして創る際に単純に考えると、一つずつ建物を新しくして、教育内容も新しくしていくということが一つの方法としてはあると思います。

けれども、近年、財政の問題というものが課題となっていて、全部の学校を建て替えるだけの体力はないという問題があります。それと併せて、小中一貫校というものが登場してきていて、私たちもほそごう学園に見学に行きましたが、隣の守口市もさつき学園という小中一貫校があります。小学校と中学校を一緒にしよう、その中で新しい教育を進めていこうというような動きもあります。そのようなことを考えていくと、やはりすべての学校をそのまま建て替えていくということは不可能ですので、ある程度まとめていく必要があります。その際に、小学校同士でまとめていく場合もあるでしょうし、小中一貫として考えながら、小学校と中学校をまとめながら新しい学校を創っていくということも考えていく必要があります。

このような状況の中で、門真の場合どうするのかということがこの議論の本質的な目的だと思っております。統廃合はあくまでも方法であって、私たちがめざしているのは新しい魅力的な学校をどう創っていくかということであることを確認したうえで、学校をどのように再編成していくのかということも議論していきたいと思っておりますのでよろしく申し上げます。

そういう中で、このままの状況で全校を建て替えていくことは無理があるということについてはみなさんご了承いただけますでしょうか。

## 委員

はい。

## 会長

ではやはり一定数学校の数を減らしながら、一ついい学校を創っていくというような方法で進めていくということで、それを考えていくための条件として、前回の振り返りにも出ております、子どもの数、地域や校区の広さ、施設の老朽度、立地条件、学校分離の経緯、この学校分離の経緯というのは、元々一つの学校だったものが子どもの数が増えてきて分かれていったという家系図のような関係がありますので、このようなことを考えながら、まずはどこから手を打っていくのかということで議論をしていくということで、一つは砂子小学校、脇田小学校、第四中学校というエリアが子どもの数、建物の老朽度、校区の広さ等を考えていくと一つの候補になるのではないかと思います。それからもう一つは前回の答申が出た時に不調に終わった北巢本小学校と四宮小学校との統廃合を考

えて一つ新しい学校を創る、それから将来的には古川橋小学校から沖小学校、それから五月田小学校のエリアの再編をどのように考えていくかということかと思えます。ここまで考えると古い校舎や子どもの数が減って新しい教育が必要となってくる学校がある程度目途がつくだろうということで議論を進めてきております。

あと、東小学校の四中校区についてもどうしていくかということについても検討事項ではあると思いますが、まずはこの砂子、脇田、四中を一緒にして、小中一貫校として考えていくということについて優先的な課題であるということであればそれでよいでしょうし、もう少し議論をする必要があるということであればこのエリアの再編をどうしていくかということをもう少し話をしますがいかがでしょうか。

### 委員

みらい小学校の統合の際も、浜町小学校、中央小学校、北小学校とがうまく統合されていきましたので、教育委員会もその経験があるので、小中一貫校であれ、何であれうまく進めていけるのではないかなと思っております。みらい小学校の統合の時も、地元の方のご苦勞もあつたとは思いますが、最終的にはうまくいっているように思いますので、そのようになればいいなと思っております。

### 会長

その時の経緯を知っている方はおられますか。

### 委員

まず浜町小学校と中央小学校が統合して浜町中央小学校になりました。その数年後に北小学校と統合して門真みらい小学校になりました。そのような順番で統合していったと思いますが、慎重に地域の方と議論を積み重ねながら統合を進めていったとは聞いております。

### 会長

これが門真の最初の統合ですか。

### 委員

みらい小学校の統合より前に、砂子小学校が統合しています。

### 委員

みらい小学校を含む校区は中学校も一つになっています。元々第一中学校と

第六中学校であったものが一つになって、現在の門真はすはな中学校になっております。

#### 会長

砂子小学校は二つの小学校が一つになったんですね。

#### 委員

南小学校と水島小学校が一緒になりました。

#### 会長

では統合ということは今回が初めての試みではないということで、ある程度門真市では実績があるので、地域との話は慎重に行っていく必要がありますが、やっていけそうかどうかということですかね。

#### 委員

北小と浜町中央小が合併した時に、中央環状線より西側、堂山、小路については最初は門真小学校に行くという話が出ていましたが、地域から反対の意見が出て、なぜかという、中央環状線を渡るとすぐにはすはな中学校があるので、そこから第三中学校に行くのは遠いということで反対の意見が出たので、小学校はみらい小学校となり、小学校の方が遠くて中学校が近いという現象が起きましたが、地域のしがらみ等もありみんなが思うような区割りにはできなかったということがありました。また、その前には門真小校区の元町は六中でしたが、元町は三中に通うことになり、色々な意見はありましたが、同じ小学校からは同じ中学校に行ったほうが良いということでそうになりましたが、昔から住んでいる地域の方も多いので、話し合いが難しくなることもありました。

北巢本と四宮の件に関しても、交通の状況や通学路の面などで反対もあったというように聞いています。

#### 会長

今おっしゃられたように、新しい学校づくりの視点として、通学距離と交通の問題ということで適切かどうかという判断も必要になるということですね。また、地域に古くからいるなじみの深い方もおられますので、直接は考える指標にはならないとは思いますが、それも一つ考慮する点ではあると思います。

この2小1中の統廃合によって新しい小中一貫校を創るということについてはみなさんいかがでしょうか。



## 委員

私も四中校区に関しては砂子小学校の子どもの数も減ってくるという中で、親の考え方からすると、子どもが少ないということは、これまでの審議会の中で横のつながり縦のつながりを話してきましたが、これがとても薄くなると思います。子どもたちの色々な感情であったりだとかそういったところがなかなかうまく育めなくなるのではないかということをお慮しております。やはり統合という形で、いい機会ですし、立地条件的にも小中一貫校が創りやすいところではないかなと思っています。門真の最初のモデルという形で進めていって、小中一貫校を創るってどんな感じになるのかなとわかると思いますし、違う校区が見てやっぱりやりたいなと思うでしょうし、まずここを優先してやるべきではないかなと思っています。その中で東小学校の一部の校区についても、一貫にしてしまうのであれば、最初から一貫校の校区にしてしまうほうが、途中で編入ということはなじめないと思いますので、ここも取り込んで考えるほうが子どもたちにとってもいいのではないかなと思います。

また、北巢本小学校も同じく、子どもの数が減ってきていますので、ここに関しても色々考えるんですけども、四宮小学校の場所で一緒になればいいのではないかなと思います。その際に一つ気になったことが、通学路の問題で、国道163号線を渡らないと通学できないので、今も四宮小学校の子どもの一部分が横断しているんですが、163号線を横断できる箇所、歩道橋が1箇所しかないんです。基本的には歩道橋を渡ることになりますので、そうすると今北巢本小に行っている子も含めて、その1箇所に集中してしまいますので、そのあたりは新たに歩道橋を設置してもらえたりするのかどうかというところもあるんでしょうけれども、そういった通学の安全面を考えるとなかなかすぐに難しいのかなと思うんですが、やっぱり子どもの数は減っているんで、子どもの成長を考えると一つにした方がいいかなというふうに思っています。

## 会長

このように歩道橋を渡る箇所はほかにもあるんですか。

## 委員

速見小学校に通っている子ども163号線を渡ってきます。ここも歩道橋が1箇所です。ですので、北巢本も四宮も同じような状態になるのかなと感じます。163号線が混んだ時に危ないのかなと思ったりもします。

## 会長

安全性ということは重要な問題なので、考えていく必要はあると思います。

## 委員

国道に歩道橋を設置するのは国がやってくれるんですか。

## 事務局

国道の管理という意味では国と協議や相談をしてつけてもらえるかどうかという話になります。

## 委員

いろいろな問題がありますね。

## 会長

実際に学校を統合して一緒にするとすると、本当いろんな問題は出てくると思います。それは丁寧に話し合いをしながらできることをしっかりとやりながらということですね。

## 委員

みらい小学校の時のようにうまく進むといいですね。

## 会長

みらい小学校の統合に関しては評価が高いんですか。

## 委員

元々私の住んでいたところは中央環状線からさっきおっしゃっていたみたいに、堂山とか東小路、西小路の方に入るので、みらい小学校の校区からしたら一番端っこだ、中央環状線を歩道橋で渡っていくというところで、小学校としてはすごく遠かったんです。1年生の最初、入学した時は途中で足が痛いと言って泣く子ども時々いました。登校班の班長さんたちも初めは少しそのような子たちの対応にてこずるということも聞いたことがありました。ただ、やはり中学校の方が近くて中学生は逆に、みらい小に行くよりも半分程度の距離で通えるようになったのではないかなと思います。歩道橋もずっと渡っていればみんなもルールを守って渡っていくので、そここのところでそんなに渋滞することもなく、子どもたちは上手に渡っているのかなとは思いますが。

みらい小統合する時に最初、浜町小と中央小が統合した時の方がいろいろ大変だったということを知っていて、その次に北小が統合するとき、その最初の統合のいろんな問題があったところを生かして、たくさん話し合いが行われての統合だったので三つの小学校が統合してもそんなに大混乱するほどでもな

いというのは聞きました。もちろん一つの学校と一つの学校がひっついていくっていう中で、擦り合わせがすごく大事になるということがあると思うので、ぱっと引っ付いてうまく流れるということはきっとないんだろうなっていうのはあるんですけど、問題を解決しつつ、ここの校区だけ先にやって、そこが終わったら次へ行ってとしていたら、何年、何十年と先送りになっていって、門真が前に進んでいかないということを考えていくと、同時進行でももちろん第一優先はこっこの校区だけれどもという中で、やっぱり別の校区についても進めていけるようなスタンスをとっていかないと、すごくすごく長い話になってしまうと思います。守口は割と一気に建て替わっていったというのもあるので、私はそっちの方が門真の未来のことを考えると良いのではないっていうふうに思っています。

## 会長

そういう意味で優先順位をつけながらも、市域全体の学校をどうしていくかということもあわせて検討して、それもそんなに何十年も先のことでなくて、やっぱりある程度短期間に、あるいは同時並行というのはちょっと厳しいかもしれないので、短期間で集中的に出来るようなことを考えた方がいいということですね。統合に関する評価はいかがですか。やってよかったですか。

## 委員

北小は子どもたちが2クラスだったので、みらい小になったときに4クラスになって、やっぱり子どもの中で、少人数の中でうまく成長していくという部分もあるんですけど、やっぱり人数が多くて切磋琢磨しながらいろんな経験ができたなっていうところもあったので、そこは子どもがたくさんの中で育っていく、いいところも悪いところも踏まえて、そこは良かったんじゃないかなというふうに思います。

## 会長

統廃合をして、結果としては不評というわけではなかったんですね。

## 委員

保護者の中には始めはやっぱり遠いといったようなことを言っている方もいましたが、私の子どものことに関して言えば、小学校1年生の時だけ北小で、2年生からみらい小だったので、もともといた学校に対する思い入れもそこまでなくて、例えば5年生や6年生ぐらいで動いてしまうってなったときに、元の学校で卒業したかったというふうに思ってた方が多かった方はきっといらっしゃる

んだらうなっていうふうには思います。

## 会長

そういう意味では統廃合そのものは一筋縄ではいかないことってのはあると思います。いろんな課題を事前にある程度理解した上で、どう課題を解決していくのかということを考えることが大事です。

## 委員

東小学校についても一部の区域だけが四中で、あとは五中へとなっているところをどう考えるかということもあると思いますが、そこも多分意見がすごく割れて、東小が全部五中に行くのか、そうすると今度は兄弟がいる家庭はどうするのかといったことや、一部だけ四中に行くということになれば、一年生の時は東小に行っていたのに、途中から変わるのかというようないろんな問題があると思うので、そこは地域の住民の方と話し合いが大変なことも出てくると思うんですけど、やっぱり未来のことを考えると必要なことだと思います。

## 会長

考えていくことは大切ですよね。そのように思います。

まずは砂子、脇田、四中で小中一貫校を創っていくということから進めるということでもよろしいですか。

委員は京都などで複数の小学校を中学校と一緒にして、小中一貫校としていく事例をご経験だと思いますけど、これから気を付けなければいけないことや課題などがあれば教えてください。

## 委員

今、ちょうど未来のことを考えるとおっしゃっておられたんですけど、私も本当にその通りだと思います。結局、未来の子どものことを考えることができるのは今の大人しかないわけで、今の大人が未来の子どものことを考えなかったら考える人はいないわけなんですよね。京都で統合が行われたときも、確かに全員が賛成なんていうことはありませんでした。反対の意見みたいなこともあったんですけども、結局その地域の主になっている人たちが、もうこれは将来の子どものことを考えてやろうと決められて、地域への働きかけもその方たちが中心になってされるということがありました。

私がいた区の統合した学校は、なんと行政区を超えた統合をやっています。これはなかなか大変なことで、市をまたいでの統合というイメージですね。このエリアの地域の中心の方が、このままではこのエリアは置いてかれる、きっと浮

いてしまうだろうということで、決断されました。一つだけ行政区が違う学校が入ることになりました。結果的にどうなったかという、この区は統合に飛び込めたんですが、隣の学校は結局もう飛び込む場所がなくなってしまいました。ですから、残念ながら今もうこの統合からは外れています。このときにこの行政区を超えて飛び込まれた方の勇気というか、将来の子どものことを考えられたということは本当に大きかったなと思います。この地域の人たちもそれについては非常に感謝されているということです。

それから、学校という施設を残す、残さないということの前に、この地域の子どものことをどうするかということを考えていかれた結果だというふうに思うんですね。私はその中で聞いたんですけども、将来の子どものために責任を持って言えるのかと、本当にこのままでいいのかと自分たちに問い返したときに、やっぱりこれは統合に踏み切らないといけないと思われたように思います。本当にそれを言い切れるかどうかみたいな勇気といったらなんですけども、本当に子どものことを見てもらって、考えてもらえたことが大きかったと思います。

京都は古い地域もたくさんありましたので、学区ということ校区ということと切り分けて考えているところがあります。ですから、学区というのはもともと地域の人たちも作ってきた、学校中心としたものであって、新しい学校ができたから新しい校区ができるというような考え方ですから、まだ区民運動会は学区ごとに行っていました。ですので、私が校長をしていた学校は9学区ありましたので、9つの区民運動会があり、すべてに顔を出していました。それぞれの区民運動会で地域の子どもたちを中心にして運動会が行われていました。学校がなくなると捉えるのではなく、学校や学区は続いていくと考えていいと思います。でも、新しい学校を創っていくことができるのは、何度も言いますが今の大人だけです。もしも統合をやらないと決めたのであれば、その責任も今の大人にあると思います。そこを踏まえて地域の中でも相談して、本当に責任を持てるのかということを考える必要があります。

厳しい話ではありますが、門真以外のところから入ってこられる方が、単学級で、もしかすると複式学級になるかもしれないというところに転入してこられるのかどうなのかという、非常に厳しい話ですがそういうことがあります。逆に、子どもの数がそろって、活気のある地域にはどんどん転入する方が増えることも考えられます。私のいた学校も、統合後に子どもが倍増しました。640人で統合してスタートして、その後1,300人を超えました。京都市はそのことを予測できなかったのかと、後で批判を受けることになりました。でも予測は難しいですよ。ずっと減ってきていましたし、640人からスタートし、今後は600人前後まで減っていくというように言われていましたので。でも、それが毎年50人増となりました。ほとんどが他府県から転入してこられるという状況でした。学校が人

を呼び込んだということです。結局その学校は分校を作らざるを得なくなりました。それについても様々反対意見等も起こりましたが、誰にも読み切れないことではありました。

でも、一つの新しい学校を創るということは、それだけ人を呼び込む可能性を持っています。どこの学校がどうということではないんですけれども、本当にそこだけは改めて聞きたいと思います。長くなりましたが、皆さん方が人の繋がりをいかして門真の子どもたちを育てていくということを考えられて、すごいなと思っております。そういう新しい学校を、誇れるような学校をぜひとも創っていただきたいと思います。

## 会長

将来の子どものことを考えて、まずは、2つの小学校と1つの中学校で小中一貫校を創っていく。地域に対しても、これから地域の子どものことをどう考えるのかという投げかけをしながら、2小1中での小中一貫校の計画づくりを進めていくということになるんじゃないでしょうか。それでは、まずこれをやっていくということで進めたいと思います。

それから二つ目が、北巢本小と四宮小を一緒にするということですが、これはデータでいっても、やっぱり子どもの数、それから建物の古さを含めて、もう優先的に考えていい地域ではないかということですが、これに関してはいかがでしょうか。

先ほど通学路の問題がおふたりから出てきて、やっぱり考えていかなくちゃいけない。通学の安全性をどう確保するかは考えていく必要がありますけれども、それを前提にしながら、二つの小学校一緒にするということです。これはおそらく、子どもの数の問題、それから学校の校舎の古さという二つの課題に対する解決方法ということになると思います。

小中一貫という観点で言えば、一体型での小中一貫校がやりにくいのは、第五中学校が大規模改修を27年から28年にやったと。まだ数年前ですね。

そういうのでそれをいじるということが非常にやりにくいということがございます。

それで小中一貫に関しては、基本的には校舎は別だけれども、先生、子どもたちの相互交流などいろんな連携をしていくというような連携型で進めていくということで、まずは小学校二つを一緒にするという方針になります。

これも前回ある程度議論していただいたと思いますが、これに関してはいかがでしょうか。

## 委員

前回の適正配置審議会で、一度出ていて、前回もらった資料3を見ますと、北巢本小は既に単学級なんですけれども、令和7年には146人、非常に学校の規模としては厳しいかなと思います。

前回の審議会では小学校の適正規模は12クラスから24クラスと、1学年2

クラス以上が望ましいのもあるし、そういうことでいうと、砂子小が一番厳しくなるんですけども、やはり、校舎も築40年を超えていますし、四宮小に至っては、今でも築53年ということもあります。

第二京阪をまたぐなど、いろいろ課題はあるかと思うんですけども、北巢本小と四宮小を一緒にするというのは、もう考えないといけないのかなと思います。

おっしゃったように、五中が大規模改造をしたばかりなので、施設もちょっと離れていますので、ここはそういう意味では分離型で小中一貫を進めていくのが今の段階ではいいのではないかなと思います。

先ほどから出ている四中校区については、5年前には四中の教頭もさせてもらったんですけど、脇田小とは道路隔てて目の前ですので、すごく一体型の学校は創りやすいかなということと、やはりこの表を見ていると砂子小が6年後には子どもの数が51人の見込みということで、これから先、複式学級の可能性もあることで、これも一番の喫緊の課題はここかな、四中校区なのかなと思います。

## 会長

ありがとうございます。

そういうことで、北巢本小と四宮小も一緒にして新しい学校を創っていくということで考えたいと思いますが、いかがでしょうか。

## 委員

そうですね。今先生がおっしゃったように、まずはしっかりやって、良かったら、大和田も真似させてもらいます。やってみて上手くいけば、次につながっていくのと違いますかね。次に進めていくところは、課題のところを考えればいいので、最初は大変だけど、喫緊のところなので、そこは頑張らないといけないのではないかと思います。

## 会長

それでは、次に北巢本小と四宮小について新しい学校づくりを考える。校地については、ここで特に決める必要はないと思うんですね。これはもう地元のいろんな話し合いの中で、場所をどこにするかっていうのは決めていただいていると思いますので、前回、北巢本小学校でやるっていうことになっていたんですかね。決めてやったものだからいろいろと議論があって、結局はうまくいかなかったということもありますので、この会では別に場所どちらにするかっていうことはあまり重要ではなくて、やっぱり一緒になって新しい学校を創っていくところまでの議論にしてもいいのではないかなと思いますがいかがですか。

望ましくは、中学校との距離なども考えれば、それは四宮小のかもしれない。地元と議論する中で、将来の小中一貫の連携型を考えたときにどこがいいのかっていうとも考えていくと、場所は地元で決めていただけるような気はするんです。いかがですか。

## 委員

ちょっといいですか。統合するとなると1校はなくなるわけですね。そこを一部分残して地域のコミュニティで使えるようにする。そうすると、子どもたちが通う学校としては移るけども、地域の活動はそこでできる。

教育委員会と市の関係などもあるけども、全部じゃなくても一部を作り変えるなりして残せば、災害時でも、緊急避難場所として利用するとか、学校ではなくなっても、子どもたちも含めて地域での行事なんかもできる、そういったことも考えていけばいいんじゃないかと思います。

## 会長

跡地活用についても、学校再編の議論の中でどうなっていくかは、地域との話し合いの中で決めていくということだと思います。

北巢本小、四宮小を一緒にする、もうあえて統廃合という言葉は使わずに一緒にして新しい学校を創るということを、2つ目の決定事項としたいと思いますがいかがですか。

そのときに東小学校問題っていうのが当然出てくるわけです。これについて、どう考えるかここでどういう提言をしておくのかっていうことなんですが、何かいいアイデアございませんか。

## 委員

アイデアというか、今の状況をちょっとお話ししたいです。

今、地域コミュニティの話が出てきましたけれども、門真では、いくつかの中学校区で地域会議が発足しておりまして、本校のある七中校区は、本年度発足なんです。そして、三中校区、その前に発足したのが、実は五中校区なんです。5、6年前に発足して、現在稼動している状態です。

その中に東小も関わっておりまして、地域とがっちり結びついている状況なので、なかなかそこを切り離すのはしんどいかなという気はします。

## 会長

なるほど。それでは基本的には東小学校校区は、もう五中校区として考えていくほうがいいんじゃないかと。場合によって例えば小中一貫校ができて、この江端町の人たちがこんな立派な建物で、こんな面白い教育をするなら、最初からうちはこっちに行かせたい、という話が出てきた時に考える。そういった余地を残しておく。

初めから、ここはこっちだとか、これはこっちだということではなくて、この江端町の地域については、地域の意向を踏まえながら議論をするということですよ、よろしいですか。

委員いかがですか。

## 委員

江端町については、四中の方に通うほうが良いんじゃないかなと思っていたのですが、地域の事情もあるんだなという感じですよ。



## 会長

本当に、地理的に見たらこちらが良さそうに見えるのは、我々第三者の見方であって、やっぱり地元はそれなりに今までの歴史とか、コミュニティのつながりとかがあると思います

最終的に、ここでどうするっていうことは決定せずに議論の余地を残しておくということにしたいと思いますがいかがでしょうか。

## 委員

それがいいと思います。我々はそれがベターと思うんですけどね。最終的なところは、地元の人に任せるので良いんじゃないでしょうか。

## 会長

委員いかがですか。第三者的な意見で構いませんので。

## 委員

東小学校としてそのまま五中に進学して、ということですよ。

## 会長

現在がそうなっていますから、基本的にはそう考えてもいいですし、四中に小中一貫の話があってもいい学校ができるなら、そっちに行かせたいという話になるかもしれないので、その時には検討可能ということにしておきたい。

## 委員

前回、江端町については特に丁寧に見ていかないといけないと意見があったかと思いますが。東小学校は比較的新しいですし、人数も 300 人を超えていてそんなに減っていくという認識はなかったもので。

## 会長

東小学校を対象にするということではなくて、基本的には今のままになりますが、将来四中校区の小中一貫校の話が進んだ時の検討の余地を残しておくということです。江端町については、ずっと東小校区にすると決めなくても良いのではないかとことです。

何かご意見あれば。

## 委員

昔、砂子小学校の前身の水島小学校は七中に通っていましたが。その後四中に校区が変わったのですが、その際に、兄弟が通っている子なんかは何年間か猶予があって、しばらくすると完全に四中になりました。大和田小でもあったと。

## 委員

大和田小でも、七中と二中に分かれていたのが、全員二中へとなった際に、何年かはどちらに行くかという選択期間があったんじゃないかと思いますが。

## 会長

なるほど、そういう前例もあるわけですね。そういう可能性も残しておく。

## 委員

校区はこっちとするけども、突然変わるのではなくて、数年はどっちか選べるようにするのもいいのかなと思います。

## 会長

委員いかがですか。その辺の地元の空気なんかはご存じかと思いますが。

## 委員

学校の雰囲気のことまでは、私もちょっとはつきりわからないんですけども、地域の方々のいろんな想いもありますし、どうしたらいいのかなあと私も思っているところです。

## 会長

地域がこれからどうなるのかわからないところがありますから、そういう意味では、ここは検討の余地を残しておくということで、東小学校校区については考えたいと思いますが皆さんよろしいですか。

## 委員

よろしいです。

## 会長

それでは、それでいきたいと思います。ということで、第四中校区と第五中校区については、新しい学校をどうしていくのかという議論はできて、ここだけで終わりではないという意見をおっしゃったように、全市的に考えていく必要があるということで、そのほかのエリアをどうするのかということも議論していきたいと思いますが、ここで明確な方針が出るということではなくて、この二つの大きいまとまり(第四中学校区と第五中学校区)をどう考えていくかということの次に、そのほかについても考えておくべきだということもこの会として答申をしたいと思いますが、いかがですか。

第二中校区、第七中校区、はすはな中校区、古川橋小学校はここですね。建物もそんなに新しくはないし、子どもの数もさほど多くは無い。2~300人という規模の学校があって、このエリアをどうするのかということも考えておく必要があると思います。

例えば、小中一貫を考えれば、私のアイデアですが、ここらへんで(第二中学校あたり)小中一貫校を創る。二島小学校はモノレールが伸びてきて、駅が

整備されて、比較的安定した地域ということで、場合によっては人口が増える可能性があるところなので、ひょっとしたら二つある中学校(第二中学校と第七中学校)の一つを二島小学校エリアに持ってきて、そこで小中一貫校を考える。五月田小学校と沖小学校エリア。大和田小学校と上野口小学校、古川橋小学校エリア。で考えると良いまとまりだなと個人的には思うのですが、そういう可能性を、この場で最終的にここをこうするという話ではなくて、可能性を含めてこのエリアについては検討したいということを出しておきたいと思いますが、さっき委員がおっしゃったように、これをやったら終わりではなくて、門真市全体をこれからどうしていくのかということについての議論のつながりになっていくと思いますので、例えばここで校区の再編成をやりながら中学校の配置ですとか、学校の数とか、小中一貫に向けてどういうように取り組んでいくのかということについて今後、検討すべきであるということを出しておきたいと思いますが、どうでしょうか。

#### 副会長

もちろん、この間の議論で門真市全体の教育をつながりのなかでやっていく、これまで門真市が大事にしてきた小中一貫教育がスタートしていますがけれども、当然、二つの地域が先行するという話でしたけれども、それと同時に中身については、先行地域を参考にしながら全体で中身を議論していく必要があると思います。その時に、教育だけではなくて世の中の動きはとても早く、中身をどうしていくかということに、こだわって行く必要があると思います。

やはり、施設の特徴や地域の特徴もありますし、門真市としての大事にするべきところはありますし、各地域の特徴を活かした教育というのも、きっとこれまでであると思うので、そういうことも議論していく必要があると思います。そのときに、前回議論にありました中学校の通学区域の割り方も場合によっては、新駅ができたり、詳しくは知りませんが市の方の再開発があったり、人口増加ということも含めて、次の議論はいろいろなファクターが入ってくるので、もっと大胆に考えていく必要があるのではないかなと思います。

#### 会長

例えば、大胆さというのはどのような感じのことでしょうか。

#### 副会長

今ある線引きにこだわらずに、自由に発想できたらいいのではないかなと思います。そういう意味では、先行する二つの校区は、施設一体型と施設分離型ということで、二つのモデルができるというのは、分かりやすい話になってく

るのかなと思います。

## 会長

すみません。先ほど言い損ねていたことがありました。四宮小学校と北巢本小学校をいっしょにすることを考えて分離型での小中一貫連携をするという話をしましたが。当然、東小学校も第五中学校との間で分離型の小中一貫連携をやっていくということは基本ですね。そういうことで、このエリア(第五中学校区と第四中学校区)は、小中一貫体制が整っていきますし、他の学校でも今のうちにできる小中一貫の分離型に基本的にはなるとは思います。どういう取り組みをやっていくのかということ、全市的にこれから考えながらいろいろなつながりを創りたいという最初の話を実現していくということですが、学校としてもそういうことに向けての準備というのは、既にされているのでしょうか。

## 委員

準備と言いますか、これはあくまでも私個人の意見になりますが、頭のなかでイメージしているものはあります。五月田小学校と第七中学校とは道を隔てて立地していて連携がしやすいのですが。もう一つ二島小学校がありまして、例えばですが5年生6年生あたりを第七中学校の余剰教室で勉強する日があってもいいのかなということも考えているところです。個人的な意見です。

## 会長

前に掲示していただいている地図の資料の説明をお願いしてもよろしいですか。

## 事務局

資料説明させていただきます。前にのせている図ですけれども。ちょっと見にくいのですが、左上の黄色い枠のところに、児童数が実際に前回話題として上がった、既に100人になっている学校ということで、北巢本小学校と砂子小学校は「少」 というマークをつけさせてもらっています。次に、児童数の推計というところで、令和7年度には単学級になる学年があるという学校について「単」 を付けさせていただいています。この学校が北巢本小学校、砂子小学校で大和田小学校、上野口小学校、沖小学校、五月田小学校、古川橋小学校、東小学校というところに「単」 マークがついているかと思います。これは前回資料で提示させていたせていただいた、令和7年度の学校の状況というのを「単」 マークで表しています。次に校区の広さというところで、

前回、委員から京都の事例等を紹介していただいて、門真市でも0.4km<sup>2</sup>というようなところは、やはり今後の人的なリソースを考えると狭いですかねっていう話題も上がりましたので、0.5km<sup>2</sup>以下の校区について「**狭**」という丸をつけさせていただいています。これが北巢本小学校、砂子小学校、それから大和田小学校、上野口小学校、古川橋小学校、五月田小学校、という辺りについてはいるかと思えます。次に学校施設の古さというところで、築年数が40年をすでに超えている学校については「**古**」というマークをつけています。これについては見ていただいたとおり、ほとんどの学校に「**古**」というマークがついています。ついていないのは東小学校と、はすはな中学校となっております。プラス大規模改修工事を行った学校を「**改修**」と描かしていただきました。それから先ほど話題に出ました、第五中学校、沖小学校、五月田小学校、砂子小学校、みらい小学校、第四中学校という学校に「**改修**」というマークがついていると思います。それから、いちばん最後ですけれども小中一貫校を考えるうえで、隣接している学校に「**隣接**」というのがあるのですが、五月田小学校と第七中学校のところと、脇田小学校と第四中学校のところの、二つに「**隣接**」というマークをつけています。もう一つ、前回に学校分離の状況というところで、昔からある村の学校が門真に四つありますと、そこから全ての学校が派生していますという話をいたしました。明治時代からある4校、四宮小学校、大和田小学校、門真小学校、二島小学校これについては全ての学校の親になっている旧村の学校ということで、この「**旧村**」というマークをつけさせていただいています。これは客観的な事実から作成した資料ですけれども、こういった記号並べていったときに、やはり学校ごとにマークが付く数といいますか、条件というのが変わってくるというのを表したのが、この図になっておりますので、こういった図を見たときに、先ほどの第四中学校区にはやはりマークが多いであるとか、第五中学校区にもマークが多い。それ以外はどうかと言ったところで会長がおっしゃっていただいたように、真ん中ら辺にはやっぱりそういう記号が多いような気がするなど、これは事務局としても思っているところです。かといってマークが少なければいいのかということでもないで、そういった現状を踏まえうえて、他の校区についても議論いただければと思っています。

## 会長

ということで、逆に言うと第四中校区は新しくなっていく。この学校は単純に建物が古いという問題はあるんですが、それ以外の問題はさほどない。この地域に関して言うと、建物の古さだけではなくて、狭いとか、子どもの数もそんなに多くはないというような問題もあって、ある意味で複合的な問題を抱えて

いる地域がこの中央エリアにあるので、この辺りをどうするのかということ  
は、当然今後議論していく必要があるというふうだと思います。そして、この  
中身についてこの審議会でご提案していくのもいいと思うのですが、ここは第一  
ラウンドとして先行の進展状況を踏まえながら考えていくということが重要に  
なってくると思いますので、このエリアに関しては校区や小中一貫もにらみなが  
ら、学校の再編をしていくというような言い方にしておくということでまと  
めたいと思いますけれども、皆さんいかがでしょうか。他に何かございます  
か。

## 委員

今お聞きして、この図を見て思ったのですが、何となくなんですけどモノレ  
ールから遠い方というか、東の方からやっていくような流れに私は見えるので  
すがそんなことはないですか、というのが一つと、優先順位を決めるというよ  
うなことがあるんですけれども、タイムテーブルではないですが帯のようにし  
て、現段階からそれぞれの地域が学校づくりについての話を始めると。ただ  
し、実施についての順番は変わっていくみたいな図を示すのがいいのではない  
かなというふうに思いました。先ほど校長先生がおっしゃったように、地域会  
議とか何かこれからのブロックあるいはエリアのこれからの教育を考えていく  
ような母体が欲しいなと思います。ですから、地域会議が母体になってもいい  
のかなという気がしますし、よくある母体としては、新しい学校づくりとか準  
備委員会というかたちもありますけれども、せつかくあるのですから地域会議  
とかがそういう役割を当面担っていく。優先順位が低いという言い方はなん  
ですが、これからというところは、地域会議で今から新しい学校づくりにつ  
いて話し合いを進めるとかいうふうな流れになるようなタイムテーブルができ  
ると見通しを持って行けるのではないかなと思いました。

## 会長

ご意見が出ましたが、いかがですか。

もう議論を始めたほうがいいというのと、ある程度タイムスケジュールを設  
定しておくということですね。

## 委員

難しいことはわかりませんが、モノレールの延伸によって新駅がで  
きたらやっぱり、たくさん人口が入ってきたり、はすはな中学校のそばにあっ  
た一中の跡にも新しい立派な図書館ができるとかいう話を聞いたり、他市で公  
立の小学校中学校ですごく教育熱心で良い学校といううわさの学校の近くにマ

ンション群を建てられたという話を聞いたのですけれども、先ほど先生がおっしゃっていたのですけれども、やはりいい学校には想像以上の人が集まってくるというので、いい小学校区というのが魅力でマンションを購入された方が、児童が多くなりすぎてしまい、その小学校に行けないような状態になっていて、もめていないの？ということをお尋ねしたら、そこは小学校がどう見ても狭いし、プレハブを建てても追いつかないのも分かるし、遠いけれども違う小学校に行かないと仕方がないのは分かるけれども、何が何でも詰め込めばそこで良い教育ができるかと言ったら、そんなことはなくて、離れたところに行かないといけなけれども、その教育のレベルを保ってほしいという意見も多いのよ、という話を聞いてびっくりしたのですけれども、それぐらい人の動きっていい学校があると集まるのかなと思ったので、計画を先に立ててしまうことの方が、やっぱり門真市全体が良くなることを望むのですけれども、建てたほうが良くなるのか、それが予想外のことが起こったときに対応ができるのかというのが素人なので分からないのですけれども、どちらにしても門真市は教育に熱心だよ、いい学校ができていくよっていう見本になる学校が、まず二つ進んでいくことがいいなあとと思うので、大きなことはこれから先どうしたらよくなるのか分からないのですけれども。

#### 委員

その通りだと思います。僕もきちっと決めてしまうのではなくて、準備は皆さんの学校が。第四中校区だとか第五中校区だけが、門真の今後の計画を考えていくのではなくて、すべての校区が今から話し合いをスタートして、そして、優先順位としては第四中校区とか第五中校区が進んでいるかもしれませんが、という流れの図が見えたら、そしたら今から取り組んで何れはうちの校区もやっていくのだなと思うんです。

#### 委員

縛られるという感じではなくて、考えましようという気持ちを高めていくような計画というイメージですね。

#### 委員

そうですね。私たちのこの審議会も結局、第四中学校と第五中学校のことだけを話し合ったのではなくて、門真の子どもたちをどうしていくかということ話し合ってきたので、優先順位はあっても結局、何れはやっぱりこの地域も、今人数が多いとは言ってもいずれは考えていかないといけない。逆に人数が増えることによってどうなるのか、そういう見通しはあったらいいなと思う

のと、繰り返しになります。それを考えている組織がやっぱり必要だと思います。でないと、誰かが考えていることをやっているとか、誰かが考えたことの問題点を追及しているだけではなくて、みんながその地域の学校とか子どもたちのことを考えていくような組織をどう創っていくのかというのが多分、次のステップです。

## 委員

ひとつは、中学校校区の地域会議これが、現在はそういうふうな組織になっていない。だから、そういう下支えをするような組織になってほしいと思っています。第三中学校区場合は全体を巻き込みながら活動するようなことになっていません。保護者、地域はもっと子どものことを考えて行動していただきたいなと思います。それを掘り起こすのが、我々 青少年指導員の責務かなと思うのですけれども。なにせ、青少年指導委員は発言力が弱いので、この場で言わせてもらうのですが、そういうふうなことがあり、子どもたちのために何ができるかを、もう一回みんなで考え直して行動していったら、もっと良くなるのではないかなと思います。

## 会長

地域会議というのは、なかなかいい取組だなと思ったのですが、これはどういう経緯で生まれましたか。

## 事務局

事務局から失礼します。地域会議についてです。平成26年に門真市自治基本条例という条例を作りまして、門真市の市民の方が自分たちの地域の課題を自分たちで解決しよう、そこに対しては市も、財政的な支援として補助金を出しましょうと。一定の財源を持った地域の塊で、地域課題を自分たちで解決する、それによって市民力・地域力を高めていきたいと思いますというための組織作りということで、自治基本条例の中に門真市は中学校区をベースに地域会議を作りましょうというふうに謳っています。

これは、今、教育の観点から皆さんに地域で子どもたちを育てましょうというような議論をしていただけていますけれども、もう少し大きい視点で教育だけではなくて、地域のさまざまな課題、健康・福祉や教育、それからまちづくりも含めて地域がそれぞれ抱えているものは少しずつ違うでしょうという中で、それぞれの地域の課題にあった取組をそれぞれの地域でやりましょうということで、組織化して市役所と協働で解決していこうという取組が地域会議です。

先ほど委員からお話ありましたとおり、現時点では第三中学校区と第五中学校区、それから第七中学校区が地域会議を既に設置されております。その他の校区については、現在準備段階もしくは地域との調整中というところですよ。



地域会議そのものは、教育に特化したものではなくて、地域全体の様々な課題について皆で考える組織ということで、26年の1月の条例制定からスタートして、順次作られていってるような状況になっています。

その地域会議ができたところに対してはそれぞれ様々な部会を作られて、教育部会、子育て部会、環境部会など、それぞれに市の補助金を財源に活動していただいているというのが現状でございます。

### 副会長

協議会との関係はどうなっていますか。

### 事務局

学校の協議会という意味では現時点では連動はしていません。

学校それぞれの評議員さんっていうのは別でまた居ますが、地域会議が学校関連の組織になっていることは現時点ではないです。

### 会長

委員や委員は、こういう会議には参加されているんですか。

### 委員

二中校区には、まだありませんので。

### 会長

二中校区は、まだなんですね。

### 委員

地域会議はまだ、発展途上ですからね。

### 委員

ちょうど半分できたんですけどね、いろいろとあるんです。今、いろいろ見せていただいて、いずれ良いものを作りたいと思います。

### 会長

さっき委員のご提案のように、これからそれぞれの地域で自分たちの地域の子どもたちをどう育てていくのか、未来像をどう描いていくのかというのを議論していくというのはやはりとても重要です、それは特に統合云々とかいうことをもう議論する前にやっぱり自分たちで自分たちの地域の子どもたちをどうするのかということを考える、例えば、それが地域会議であってもコミュニティ・スクールであってもいいのですが。

ところで、コミュニティ・スクールはもう実施されていますか。まだですか。

学校運営協議会を設置してのコミュニティ・スクールは、どこもやっていないんですかね。何かそういう核がほしいですよ。

## 副会長

学校をどうしていこうかという話をこれまでしてきましたが、今回、学校再編の議論の俎上に上がったということで、対象になったところは、おそらくこの先議論が進んでいくと思います。

そういう意味では、委員がおっしゃるように、単なる一般論ではなくて、大胆に通学区域も含めた、市全域がその改革の対象になるんだよということを、なんというか目に見える形で残していくことも大事ではないかなと思います。

冒頭に、未来の子どもたちのことを考えるというキーワードを出していただきました。地域の愛着という中で、きっと反対という意見がどこでもあるわけですが、反対という愛着の中身を聞いていただく必要があると思います。

地域コミュニティがなくなるということが課題であれば、先ほどおっしゃられたように、跡地の活用や社会教育関係でフォローできるでしょうし、学校そのものへの哀愁のような部分であれば、子どものことを考えるならという議論の余地はあって、できない理由を言い合うのではなくて、未来志向で考えて、安全面も含めて、どうやったらできるのかという発想に変わっていくんじゃないかと思います。そういう意味では、先ほど事務局から説明がありましたが、二中、七中あたりもいろいろ考える余地もありそうなので、俎上には全てが対象になるんだよという、何らかの示し方が大事じゃないかなと思います。

## 会長

自治会があって、PTAがあって、学校があってっていう3者を中心にして、地域全体でやっぱり地域の学校、子どもをどうこれから未来に向けて、育てるのかということですよ。

名前は学校会議でもなんでもいいですけど、地域会議の中にあってもいいと思いますし、別組織でもいいと思うので、作れるといいですね。

## 副会長

地域会議にも教育部会のようなものがあるのであれば、連動ができればいいですね。

## 会長

お金ももらえそうですから、そちらがいいかもしれないですね。

## 委員

そこまではいけていないですね、まだ年数も浅いですから。もう少し段階を踏む必要があるかもしれません。

## 委員

私と委員は、自治連合会って言いまして、14校区の校区理事が月1回集まって横の連絡をとりながらやっていますんで、それプラス6つの中学校区でという感じになります。

今でも、十分門真の子どものためにも頑張っていると思っていますが、話を聞

くと、上手くいっているところ、揉めているところもあるようです。大和田小校区は仲良くやっているの、うちみたいなのところがあればなと思います。

#### 会長

そういう意味では、自治会が母体になるっていうのが一つ考えられるかもしれませんがね。学校が母体というのはちょっとないと思いますし。

#### 委員

自治会長も忙しいですし、大変ですよ。

#### 会長

最終的にどうなるかわかりませんが、議論していただくということで、いずれにしても門真の未来を考えるそういう校区単位の組織というかなんか仲間作りをしていって、そこからこういう学校の再編まで発展して議論できるよになるといいと思いますね。

委員いかがですか。

#### 委員

提言はこの会がするんですけども、やはり実際に動くのは地域だと思います。その時にどういう母体がいいのかを考えておけばいいのではないのでしょうか。

この母体がうまくいくと、学校運営協議会にすっと移行できるんです。その時点でコミュニティ・スクールになっていくんです。既に全国で7,000校くらいがやっていますが、何らかの母体の会議があって進んでいます。昔は、地域の人それぞれに一对一でお話をしなければいけなかったんです。この問題はあの人に、こっちはまた別の人にといい感じでした。この会があってありがたいのは、この会に話を通せば良くて、校長も含めてみんな楽になったんです。代表者という個人ではなくて合意体のようなもので、この会で話をすれば一緒に考えられるんです。そういう会ができて、今後はそこで一緒に考えていきたいと思います。のがすごく自然で、また、将来の発展になるかなと思います。

#### 会長

この会の提言が、言いつ放しにならないようにやはり、地元でちゃんとこれをどう実践していくのかを考えただけであればいいと思います。

ボランティアグループとかは何かやっておられないんですか。

子ども食堂とかはやっておられる。ない。

#### 委員

子ども食堂は、門真にもあります。

#### 会長

何かそういういろんな面があってそれをつないで大きくしていくのが本当はいいかなと思うんですよ。

## 委員

それと、各校区で秋には校区体育祭をやって、門真小校区では5月から体育振興会の会議で小学校の校長、教頭、PTA会長、全部集まって、毎月1回会議するんです。

そうすると、子どものことも分かるし、ウロウロしていても、連絡が付きやすいんですよ。そういう全体の行事がないところは、下手に声かけたら逆に文句がでる。いろんな人間が集まって月1回でも会議ができるようなところであれば、言いやすいんですよ。そのため子どもの安全も守られてという形。

前にも言いましたが、年1回、100当番の家へ子どもが行ってスタンプを押しってもらうというイベントをやっています。いろんな人が参加して話し合います。子どもの見守りという面でも、皆さんちょっとでもそういう会議があるほうが、スムーズにいくと思います。

## 会長

この審議会の議論の中で、やっぱりそういう未来の学校作り、あるいは子育てに向けて話し合いの母体を作っていくというのは明記しておいていただいた方がいいですね。言いつばなしにならないという意味で。自治会が1つになると思うので、委員に是非実践していただきたいということで。

はい、だいたい議論は深まって出尽くしたような気がします。最後に委員まとめていただけますか。これからの門真の学校をどう考えるかということをお願いします。

## 委員

失礼します。繰り返しになるかもわかりません。

地域の方のいろんなこともあるんですけども、生徒数・児童数が減ることでやっぱり良い面もあるという議論もあるんでしょうけど、私は学校の教員ですから子どもたちのことを考えると、やはり教師を長くやっている中で、子どもらの判断力とか経験とか、私達が教えることだけじゃなくて、子ども同士の学びの中から子どもらが得られることはたくさんありますし、自分の子どもを見ても、学校で学んできたことは大きいなど、すごく思っております。ですから、今後この新しい学校を、統廃合より、再編っていうのでしょうか、再編する形において、やはり子どもたちが多様な学びをできるような環境作りをしっかりとやっていけたらいいかなと思っています。

また、当然、小規模になっている小学校の別の校区の課題も残っているんでしょうけど、まずは自分ところになってしまいますけども、砂子小学校さんに何回か行っても、子どもは少ないグループになって、やっぱり議論の幅も広がらないだろうし、関係性も固定されているのが外から見ても若干見える部分もあります。

ですので、できるだけ早くやってあげるのであれば、ぜひ早くいろんな形で、スピード感持ちながら、こうなんていうんでしょうか、きちっと考えていくっていう矛盾するかもわかりませんが、同時進行で考えていって、子どもたちのために我々学校の教師、地域の皆様、事務局の方、皆さんで力合わせて、良い学校

を作って、地域も盛り上がればいいかなと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

## 会長

ありがとうございます。

結論というかこの会の役割で大きい2つの方向性と、全体として考えるという方向性も出していただき、ほぼ目的は達したのかなっていう気はしますが、あと2回あるんですかね。

ちょっと後2回のスケジュールってどうなっているか、少し説明していただいて、今日は終わりにしたいと思います。

あと今日のことに関して、何かもしご意見があればいかがですか。

よろしいですか。

## 事務局

まず今後の流れでございますが、本日第6回の議論をまとめさせていただいて、その後、これまで議論してきた内容をこの審議会の答申案という形で、まとめたいと思っています。

第7回の審議会につきましては、現在日程調整中ですが、1月をめどに開催したいと思っています。その時には、先ほどの答申案を皆様に案として提示し、これまで議論してきた内容と齟齬がないか、さらに付け加える内容がないか、といったあたりを議論していただく予定としております。

その議論を踏まえて最終第8回につきましては、2月ないし3月にもう一度開催して、この会の答申という形で決定をしたいと思っています。ですので、スケジュールとしては1月が次の会議、そしてその後は2月か3月にもう1回となろうかと考えています。

## 会長

答申というと、非常に堅苦しい印象もあるんですけども、皆さんのいろんなお考え、アイデアをどんどん盛り込んでいきたいと思っています。1回目からずっと振り返ってみると、門真市ってどんな学校を創りたいのかということについて、繋がりにってということがキーワードになって議論が進んできましたが、その繋がりを実践するための場として、どう考えていくのかっていう議論もして、このような形で今日まで議論進めてきました。次回は、そういうのを全部ひっくるめて、第1回から本日第6回までのいろんな議論を振り返っていただいて、こういうことを書き足した方がいいとか、こういうことはもっと門真に必要なんじゃないかっていうようなご意見があれば、出していただきながら議論したいと思います。どうぞよろしくお願ひします。

それでは、今日はこれをもって、もう方向性が定まったということで閉会にしたいと思います。ありがとうございます。